

**製品名: Dok-1 (リン酸化 Tyr398) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04557**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	62kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DOK1
別名	DOK1; Docking protein 1; Downstream of tyrosine kinase 1; p62(dok); pp62
遺伝子 ID	1796.0
SwissProt ID	Q99704
免疫原	抗血清は、ヒト p62 Dok の Tyr398 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 365-414

**背景**

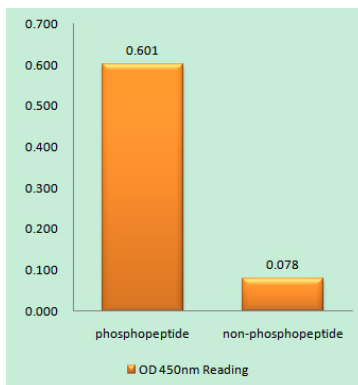
ドッキングタンパク質 1 (DOK1) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、受容体チロシンキナーゼの下流の

シグナル伝達経路の一部です。コードされるタンパク質は、多タンパク質シグナル伝達複合体の組み立てのためのプラットフォーム形成を助ける足場タンパク質です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2016年1月],ドメイン: PTB ドメインは受容体相互作用を媒介します。機能: DOK タンパク質は酵素的に不活性化アダプターまたは足場タンパク質です。これらは、多分子シグナル伝達複合体の組み立てのためのドッキングプラットフォームを提供します。DOK1 は、インスリンシグナル伝達経路の負の調節因子であると考えられます。ITGB3 上の同じ結合部位をタリンと競合することにより、インテグリンの活性化を調節します。PTM: 恒常的にチロシンリン酸化されています。PTM: インスリン受容体キナーゼによってチロシン残基がリン酸化されます。インスリンシグナル伝達経路の負の調節をもたらす。類似性: DOK ファミリーに属する。タイプ A サブファミリー。類似性: IRS 型 PTB ドメインを 1 つ含む。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。サブユニット: ABL と相互作用する (類似性による)。RasGAP および INPP5D/SHIP1 と相互作用する。リン酸化 ITGB3 と直接相互作用する。組織特異性: 脾臓、心臓、白血球、脾臓で発現する。休止期および活性化末梢血 T 細胞の両方で発現する。、

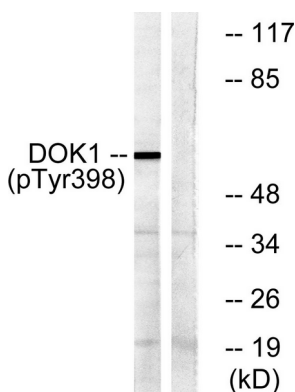
## 研究分野

B 細胞抗原

## 画像データ



p62 Dok (リン酸化 Tyr398) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



飢餓 24 時間処理した K562 細胞ライセートの p62 Dok (リン酸化 Tyr398) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。